

履 歷 書

府縣 青森縣 原籍 青森縣 珍田捨巳 舊姓名

珍田捨巳

安政三年二月二十四日生

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	職 名
明治十八年	九月三十日	御用掛申付候事	
		但身方取扱准利任月俸五拾圓下賜候事	外務省
同十九年	三月五日	任外務局	
		月俸金五拾圓支給	
	七月十五日	任交際官試補	
			外務省
		叙奏任官五等	
		年俸六百圓下賜	外務大臣
	十月三十日	叙從七位	
同二十年			
	十月一日	自今年俸七百圓下賜	外務大臣
同二十一年			
	十月十日	電信課長兼勸業局長	
同二十二年			
	五月三十日	任公使館書記官	
		叙奏任官五等	内閣
		年俸八百圓下賜	
		電信課長兼勸業局長	外務大臣
同二十三年			

	三月五日	布哇國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ナイト」コンミット	
		オス、ゼ、クラウシ、オス、ハ、ワイ、勲章ヲ受領シ及ヒ	
		佩用スルヲ允許ス	賞勲局
	六月廿七日	官制改正	
	七月八日	陞叙奏任官四等	内閣
	〃	年俸千圓下賜	外務大臣
	〃	總務局電信課長ヲ命ス	〃
	九月十三日	任領事	
		叙奏任官四等	内閣
	〃	桑港在勤ヲ命ス	
	〃	中級俸下賜	外務大臣
同二十四年	十月十日	在桑港領事館出納官吏ヲ命ス	〃
	三月三十日	定公使館領事館費用條例	
	四月一日	中級俸下賜	外務大臣
	七月廿四日	俸給令改正	
	十月廿日	叙従六位	
同二十六年			
	十月十日	任一等領事	
		叙高等官五等	内閣
		賜一級俸	外務大臣
同二十七年			
	十月十八日	仁川在勤ヲ命ス	〃
同二十八年			
	六月六日	任總領事	
		叙高等官四等	内閣

外務省

	上海在勤ヲ余ス	外務省
	賜三級俸	全
九月三日	敘正六位	
十月三日	敘勲五等授瑞寶章	
	賜三十七年事件功依勲五等瑞寶章	
	ヲ授ケ賜フ	賞勲局
同二十九年		
九月十二日	蘇州兼勤ヲ余ス	外務省
十月一日	兼任蘇州郵便局長	
今日	敘高等官四等	
十月八日	賜二級俸	外務省
十月三日	賜一級俸	全
同三十年		
五月十七日	任辦理公使	外務省
	敘高等官二等	内閣
今日	賜二級俸	
	伯刺西爾國駐劄被仰付	外務省
今日	兼任總領事	
	敘高等官四等	内閣
	リオデ、ジャネーロ在勤ヲ余ス	外務省
六月三日	免兼官	
八月二十日	敘正五位	
同三十一年		
六月二日	敘勲四等授瑞寶章	
同三十二年		
三月十日	賜一級俸	

外務省	同日	伯利亞蘭國駐劄被免	
	同日	和蘭國駐劄被仰付	
	同日	丁抹國駐劄公使兼勅被仰付	
	同日	免兼官	
	同三十三年		
	六月二十日	任特命全權公使	
	"	叙高等官二等	
	十月十五日	和蘭國駐劄被免	
	"	丁抹國駐劄兼勅被免	
	"	露國駐劄被仰付	
外務省	"	瑞典議威威國駐劄兼勅被仰付	
	十月三十日	陞叙高等官一等	
	"	賜二級俸	
	同三十四年		
	一月三十日	叙從四位	
	十月五日	和蘭國皇帝陛下ヨリ贈與シタルウ デル、グロイトロイス、インデ、ラルデ、ウアンガラ ンイエ、ナツサイ、勲章ヲ受領シ及ヒ佩 用スルヲ允許ス	賞勲局
	十月五日	露國駐劄被免	
	"	瑞典國駐劄兼勅被免	
	"	任外務總務長官	
	"	叙高等官一等	
同三十五年	十月七日	外務省所管事務政府委員被仰付	
	三月四日	瑞典國皇帝陛下ヨリ贈與シタル北極	

	九月三日	依勲功特授男爵	
	十月五日	佛蘭西共和國政府ヨリ贈典シタル	
		オフィシエード、ロルドル、ナシヨナルド、ラレシ	
		ドール勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許	賞勲局
	三月廿五日	外務省所管事務政府委員被仰付	
同四十二年	四月廿九日	露西亞國皇帝陛下ヨリ贈典シタル	
		勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許	賞勲局
	五月六日	條約改正取調委員長ヲ命ス	
	六月六日	任特命全權大使	
		獨逸國駐劄被仰付	内閣
同四十三年	四月三十日	叙從三位	
	一月十四日	露西亞國皇帝陛下ヨリ贈典シタル	
		勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ	
		允許	賞勲局
	四月一日	高等官等俸給令改正付年俸六千圓	
同四十四年	八月二日	依勲功特陞授子爵	
	十月三日	歸朝ヲ命ス	
	十月三日	獨逸國駐劄被免	
		米國駐劄被仰付	
同四十五年	一月十九日	普魯西國皇帝陛下ヨリ贈典シタル	
		勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許	

外務省

		在元年	セウル	賞勲局
	八月百	韓国併合記念章授典	令	
同三年	五月十日	叙正三位		
同四年	十月十日	大禮記念章授典	賞勲局	
同五年	育十三日	米國駐劄被免	内閣	
	"	英國駐劄被仰付	令	
	四月一日	大正三四年事件功依り金貳千圓ヲ賜フ	賞勲局	
同六年				
	十月十日	聯合國巴里會議委員トシテ参列	外務省	
		被仰付	内閣	
同七年				
	五月十日	佛國へ出張ヲ命ズ		
同八年				
	一月十三日	滿和全權委員被仰付	内閣	
	育二十日	大不列顛國皇帝陛下ヨリ勲章ヲ		
		「ライクトリ」第一等勲章ヲ受領シ		
		及ヒ佩用スルヲ允許セリ	賞勲局	
同九年				
	五月五日	歸朝ヲ命ズ		
	八月十日	高等官等俸給改正付年俸七、〇〇〇圓		
	九月七日	依勲功特陞授伯爵		

授旭日桐花大綬章 (第九十三号)	
對獨平和條約締結並大正四年 乃至九年事件功依り旭日大綬章	
及金五千圓ヲ授ケ賜ノ 大正五年四月九日外務省軍務局長 任樞密顧問官	十月二十日
臨時外交調査委員會委員被仰付	十月十一日
御沙汰	十月廿五日
卿曩ニ全權委員トシテ講和會議ニ 列シ勵精事ニ當リ克ク其ノ任務ヲ盡 クセリ朕深ク其ノ勞ヲ嘉ス	十月十四日
宮内有御用掛被仰付	十月十四日
皇太子殿下海外御巡遊供奉被仰付 出發	三月三日
叙從二位	五月三十日
外務省	
歸朝	九月三日
大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラシクロ ア、ブライテイッシュ、エムパイア」勳章ヲ受領シ及 ヒ佩用スルヲ允許セラル	九月十日
佛蘭西共和國政府ヨリ贈與シタル「グラシクロア、ド ロルドル、ナレヨナル、ド、スレジョンドール」勳章ヲ受 領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル	
同	
白耳義國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラシクロア、レオ ポール」第二世勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許 セラル	
同	
和蘭國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラシクロアレ オン、ネーランデイ」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スル ヲ允許セラル	
同	

		伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラン・シロア」 サン・モリス・エ・ラザレ勲章ヲ受領シ及ヒ佩用ス ルヲ允許セラル	同
		羅馬法王陛下ヨリ贈與シタル「グラン・シロア・ビース」 勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル	同
	十月五日	金杯一組ヲ賜フ （東京海軍博物館）	賞魚局
	十月廿五日	兼任東宮大夫 教高事官一等	
		特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ	宮内有
		宮内有御用掛被免	同
	十月十九日	帝秋寮審議官被仰付	同
	十年三月七日	英國皇太子殿下接伴員被仰付	同
履歴用紙	十年七月廿六日	皇太子殿下葉山行啓供奉被仰付	宮内有
	九月十八日	臨時外交調査委員會官制廢止	
	九月廿五日	金杯一組ヲ賜フ	賞魚局
	九月廿七日	皇太子殿下山梨縣下行啓供奉被仰付	宮内有
	十月十二日	皇太子殿下靜岡縣下御殿場附近行啓供奉 被仰付	同
	十年一月廿三日	皇太子殿下沼津行啓供奉被仰付	同
	三月廿五日	補議定官	内閣
	八月二日	皇太子殿下西那爾野行啓供奉被仰付	宮内有
	八月三日	皇太子殿下日光行啓供奉被仰付	口
	八月十四日	皇太子殿下輕井沢行啓供奉被仰付	口
	十年二月十九日	皇太子殿下紀伊縣下東牟婁郡下及奈良三重兩縣 下行啓供奉被仰付	日

九月三日	除服出仕被仰付	内	内
十月廿日	攝政殿下石川縣下行啓侍奉被仰付	官	内有
〃	皇太子殿下北陸地方行啓侍奉被仰付	口	
十一月一日	攝政殿下石川縣下行啓侍奉被仰付	口	
十二月六日	皇太子殿下北陸地方行啓侍奉被仰付	口	
十四年一月十日	七十歳、高齡ニ付御儀并銀杯並酒肴料下賜セラレタリ		
〃	皇太子殿下京都大坂兩府下り啓侍奉被仰付	官	内有
〃	昭和三十二年三月廿日 東宮職官制廃止 兼任皇右宮大夫		
〃	叙高等官一等	口	
〃	特ニ親任官、待遇ヲ賜フ		
〃	侍從職御用掛被仰付		
〃	歴 用 紙	〃	密 院
二年三月三日	宗秩寮審議官被仰付 兼任侍從長	口	
〃	侍從職御用掛被免		
〃	宗秩寮審議官被免		
〃	免兼官 皇右宮大夫		
〃	元東宮職殘務取扱フ命ス		
〃	任侍從長		
〃	兼任樞密顧問官		
七月十九日	聯合艦隊演習行幸供奉被仰付	官	内有
三年三月九日	葉山行幸行啓侍奉被仰付	同	
六月一日	叙正二位 相若親王及トハリ被仰付 侍從長トシテ内務省		
十月廿日	大禮行幸供奉被仰付	官	内有
十二月廿日	金杯一組ヲ賜フ 大禮行幸	官	無 局

四年一月廿六日

敘從一位

侍從長トシテ宮内省上平

時旨ヲ以テ位一級被進

侍從長

官内省

薨去

一月十九日

御沙汰

傳組衝ニ當リカラ四方ノ專對ニ宣ハ

樞機議ニ参シ心ヲ庶政ノ諮詢ニ培ス

曾テ啓沃ノ功ヲ累ネ東宮ニ羽翼タリ

遂ニ勤勞ノ績ヲ效シ中震ニ股肱ヲ

リ遽ニ溘ニ聞ク何ソ痛悼ニ勝ヘシ

宜ク使ノ遣ハレ賻ヲ賜ヒ以テ弔慰ス

ヘシ

帝御後賜御名章授與

賞魚局

履歷用紙

樞密院